

中学校障害児学級の授業づくり (社会科)

「黒燿石から縄文時代を考える」

1. 若葉学級の社会科について

(1)今年度の年間計画

- ①空間の認識 (地理・地図) 1 学期
- ②時間の認識 (歴史) 2 学期 (本レポート)
※本レポートの授業の後は、もう少し現在に近い、自分や家族の歴史に戻り、さらに「縄文」や「キョウリュウ」の時代からの大まかな時間の流れを考えたいと思っている。
- ③労働の認識 (家族の仕事や、自分の将来の仕事) 3 学期
- ④ニュース (「世の中の出来事」「自分のまわりの出来事」) 常時

(2)社会科の授業のねらい

学級の子ども達 (いわゆる「軽度」である) は、日常会話をこなし、時には冗談を言い、一見いろいろなことがわかっているように見える。しかし、例えば空間的には、家から学校までの往復の道や交通機関やその周辺で、時間的にも、現在をはさんだごく短い時間の幅の中で生きているという感じである。

そういう子ども達に、簡単に言うと、「自分はこの時代に生きている、社会の一員なのだ」という意識をもってもらうこと、そして(1)であげたような「空間」や「歴史」や「労働」等の「社会認識 (の芽)」を育てていきたいということをねらいとしている。

2. 「黒燿石から縄文時代を考える」授業

(1)「縄文時代」を取り上げたきっかけ

2学期の学級の宿泊学習で、長野県姫木平 (八王子市の宿泊施設がある) に行くことになっていた。2泊3日の内容として、昼間は霧ヶ峰・北八ヶ岳のハイキング、登山、夜は星の観察 (事前にパソコンで授業を行う) というくらいは決まっていたのだが、もう一つくらい学習を中心とした活動ができないかと、考えていた。

八王子市の資料にも「近くに和田峠という黒燿石の産地がある」ということは書いてあったのだが、ほとんど自分のアンテナに引っ掛からず (というより正直な話、黒燿石の何たるかを知らなかった) で、引っ掛かりようがなかったと言う方が正しい)。そんな折り、知り合いの社会科教師から、姫木平近辺の黒燿石の採掘跡のこと、また昨年「長門町古代ロマン体験館」ができ、そこでは「黒燿石からのやじりづくり」「縄文土器作り」等の体験学習ができることを聞いた。

「これは使えるかもしれない」ということで、自分の学級で学習することができるかどうか考えていくこととなった。そして「縄文時代はなかなか魅力的な時代であるということ」「小学校の普通学級の授業で参考となる実践があること」などから、縄文時代全体でなく、ある項目に絞って行けば、学級の生徒達も考えていけるのではないかと、また、宿泊学習自体の充実も図れ、2学期の「歴史」の授業の導入にすることができると考え、「縄文時代」を授業で取り上げることにした。

(2)この単元のねらい

- ①縄文時代の食べ物を考えて行くことで、縄文時代が「狩りと採集」の時代であったことを、大まかに理解すること。
- ②実際に目の前にない「過去」のことを、資料を媒介にして、想像し自分の考えを話し、考え合うこと。
- ③上2つのことを経験して、この学習以降の「歴史」学習の下地にすること。

(3)主な学習経過

①「これは何でしょう？」 ～黒燿石を見せる～ (1時間)

ねらい：・黒燿石の実物を見たり、さわったりして、考えることで縄文時代について学んで行くことの動機付けとする。

- T : (黒燿石のかけらを見せて) これは何でしょう？
S1 : 石にも見えるんだけど、ガラスのかけらかなあ？
(他の生徒は考えてはいるようだが、発言しない。一人ずつ言ってもらおう)
S2 : 石のねえ、石のところにはさまってる石。
S3,4 : ガラスのかけら
S5 : センボ (意味不明) …海の中の……、ウーンわかんない。お皿？ コップ？
カキーンって (床に叩きつける動作)。
S6 : お皿。……お皿の一部。
T : 石、ガラス、皿って出ましたが……。ガラスみたいだねえ、透明で。これをちょっとねえ、割ってみます。(金槌を出す) 割っていい？
S : (口々に) ダメエ。だって飛びそうな気がする。雑巾でくるんでやればいいんだよ。あぁ、こわいこわい。いいよ。
T : (ビニール袋に入れ、雑巾をかぶせて割る)
S : 割れたかなあ？ 割れた？
T : こんなふうには割れました。何でしょうねえ？
S2 : なんか、切るものだよ、切る。
S3 : あぁ、あぁ、コップのかけら。
S2 : わかった。ロープに縛りつけたやりみたい。木にかけらを。
S4 : コップみたい。
S5 : コップ？ お皿？
S6 : カップの涙 (!?)
S3 : こっちがコップのかけらで、こっちがやり。
T : いろいろ出て来たんだけど、ちょっと危なそうですよねえ。切るとか、やりを使うとか言ってたねえ。これ切れるかなあ？ 切れると思う？
S : 切れない。切れる。
T : この紙でやってみようか。(紙を切ってみる。)
S : わぁー。切れる。
T : (木を削ってみる)
S : 削れる。あぶねえ。わぁ。
T : もう一回割ってみようか。割ってみたい人？
S : はい、はい、はい、はい！！
(全員交代でやるが、なかなか割れない。一人だけ割れる。大騒ぎである。)
T : こーんな薄ーく割れてるねえ。
(もう一度割ったことで、いかにも矢の先らしい形のかけらができる。)

S: ああー。あーあー。(何かわかった感じ)
 S2: 分かりました、先生。これはねえ、学校(小学校普通学級)で勉強しました。ジョウモンなんかかって。……縄文時代!
 T: 縄文って聞いたことある?
 S4: 聞いたことあるような気がする。(聞いたことある人3名)
 T: 縄文って何?
 S2,3: 時代……。
 T: 時代って?
 S2: うーんとねえ、お猿さんみたいな人がねえ、お猿さんみたいな、毛をした。
 S: ずっと、昔。
 T: ずっと昔の人が使っていたの?
 S: うん、うん。
 T: で、みんなが言うように、やりかなんかに使ってたの?
 S: うん。そういうこと。
 T: みんなそう思う?(ウンウン) 割ってみたら、何かそういう感じがしてきましたよねえ。これは、そうなんです。大昔、大昔っていうのは、また後でみんな勉強したいと思いますが……大昔、人間が使っていたものなんです。大昔、みんなが言ったような使い方をしてたと思うんだけど……。じゃあ、これで大昔の人達は何をしてたんだろう。
 S5: これでえ、絵をかいてえ、つくってえ、絵をかいた。(版画かな?)
 S3: それでえ、動物とかを一、殺してえ、焼いて食べた。
 T: これはどうやって?
 S3: これで、シュッて。(槍を投げるかっこう)
 S4: 先がとがってるから、けずるやつ。
 S1: やりを作って、動物をとった。
 S6: やりを作って……かもしれない。
 S2: やりを作って、犬を連れて、柴犬みたいなのを連れて、森へ行って、犬の鼻でこっちにいるとかいって、つかまえた。
 T: そういう意見が多いですねえ。やりとか、けずるとか。そういうことだと思うんだよね。これはこういう(黒板に「黒燿石」と板書)ものなんです。ガラスのかけらじゃなくて、石なんだね。これから勉強していくから、この字とことばは覚えて下さい。
 さて、(竹で作った弓を見せる)実はこの間、タイムマシンに乗って大昔に行ってきたんです。(S: エーッ! うそだあ! どらえもん頼んだの?)
 それで、石を削ってこういう形にして来ました。大昔の人に習って(S: えーっ? ……当然うそとわかって楽しんでいる)。まだ完成しなかったので、これから、矢を作ってみます(実演)。
 (段ボール箱に張った鹿を的に、交代で矢を射ることにする)
 T: やってみたい人?
 S: ハイッ! 一列に並んで!(全員その気になる)
 (しかし、担任以外はともに飛ばなかった。)
 T: (これから、この頃のことを勉強していくこと、黒燿石はどこでもはなかったが、10月に行く姫木平の近くでとれたこと、そこで自分達もやじりを作れることを話す)
 S: 難しそー。

②縄文時代の食べ物は? (4時間)

ねらい: ・縄文時代の食べ物を、今と比較しながら予想し、調べて行くことで、(大雑把に言って)農耕や牧畜がなかったことを理解する。

- 何を食べていたかを予想し、調べる。
↓
- どこで手に入れたかを予想し、調べる。
(現在の「畑」「養○場」⇒「お店で」との比較で)
↓
- どうやって手に入れたかを予想し、調べる。
(現在の「育てたもの」を「お金で買う」との比較で)

縄文時代の人たちの生活はどんなだった?

<食べ物から考える>

	今	縄文時代	
何を食べる?	パン みそ汁 にんじん さかな わかめ	(予想) パン にんじん さかな くわい	(調べたら) さかな 川のしな(川魚) かわのや 栗のは くわい
どこで手に入れた?	おみせ いちば 畑 うい	(予想) 自分のたて 川 山	(調べたら) 川 山 木 野原
どうやって?	木 石 火	(予想) 石 木 火	(調べたら) 木 石 火

縄文時代の人たちの生活はどんなだった?
みる>

縄文時代	
(予想) パン みそ汁	(調べたら) さかな 川のしな(川魚) かわのや 栗のは くわい
(予想) 川 山 木 野原	(調べたら) 川 山 木 野原
(予想) 木 石 火	(調べたら) 木 石 火

縄文時代の人たちの生活はどんなだった？

<食べ物から考える>

	今	縄文時代	
何を食 べる？	こめ パン 肉 魚 野菜 みそ汁	(予想) 〔動物〕鹿、マンモス、かえる (しろ)熊、(しま)りす、 かえる、へび、うさぎ、鳥、 牛、ダチョウ、豚、シマウマ 〔魚など〕魚、あさり(貝) 〔植物〕ぶどう、なし、いちご りんご、くだもの、 木の実(をつぶしたおじや) 〔その他〕パン、ごはん、 チーズ	(調べたら) 魚 いのしし、鹿などの動物 貝 木の実 木の葉 くだもの
どこで 手に 入れる？	畑、海、 田んぼ、 牛小屋 豚小屋など ↓ お 店	(予想) 森、海、木、川、植物、山、 雪があるところ	(調べたら) 川、海、山、林、 森、野原
どう や っ て ？	野菜、米など を育てる。 牛、豚などを 育てる。 お金で買う。	(予想) 自分の力で 〔いのしし、鹿〕 ・棒で突きさす。 ・弓矢で ・槍でさす。 ・棒でたたく ・鹿の角をつかまえてしぼる ・犬 ・落とし穴 〔魚〕 ・手でつかむ。 ・棒 ・もり(ひもをつけて) ・あみ ・やり 〔木の実〕 ・木についているのを石で。 ・森にひろいに。 ・木をゆらして。	(調べたら) もともといた動物、もとも とあった木の実などを採っ ていた。 (育ててはいなかった。) (※この欄、教員のことば でまとめた)

【②の授業の中で】

○何を食べる？

・縄文時代の食べ物に「パン」「ごはん」「チーズ」が出た時……その時点では「どうだったんだろうねえ？」と言うにとどめた。

S「鹿とか動物をとってたから、食べてない。」
「まだなかった。」

「機械がなかったから食べてない。」など。

⇒表を作成し終わった段階で、農耕や牧畜をまだしていないから、食べていなかったんじゃないか、ということ話す。

※パンに似たものは、ドングリなどで作っている。

○どこで手に入れる？

・生徒から、「今」のところで、「畑」「海」など、ものを直接とる所と、一般の人が手に入れる「店」(はじめは、スーパー、ダイエー、いなげや、等で「店」とは出てこない)が出てきた。特に「畑」が出てきたのは大きかった。後の「育てる」ということにスナリつながっていったようだ。

・「肉」をどうしたかについては、なかなか出なかった。

T「(1時間目にやったように)山に行き、弓矢でとるの？」

S「ちがう、ちがう。」

と、ということで「牛小屋」「豚小屋」などが出て来る。

S「牛を育てて、殺して、売る」という発言も出た。

※「養豚」「養鶏」「酪農」などに簡単に触れた。

○どうやって手に入れる？

・「今」の部分の発言

T「畑でどうやって手にいれるの？」

S1「たねをまいて」

S3「水を入れて栄養をあげてとる」

T「牛や豚はどうやって手に入れるの？」

S6「ようしょく(養殖)？」

S4「黄色い札が付いてて、体重とかわかる」

S6「ふか(孵化)する。生まれて、子牛が生まれて、育てる。ミルクをあげて大きくなる。別れて行っちゃう。」

※S5以外は「お金はらって」がすんなり出てくる。S5も何回か聞く内に「アップル(スーパー)で」「お母さんが」など出た後に、「買う」と言う。

・「縄文時代」については、参考資料(「日本人の起源6縄文時代」教育社)の絵を何回も見ているので、それぞれ具体的な方法を出すことができる。さらに、「自分で」「自分の力で」ということばも出てくる。

※まとめ方として、「お金払って」に対して「自分で」、「育てて」に対して「もともとあるもの、いるもの」ということばは、教員の方から出した。

③ 縄文時代まとめ

(2.5時間)

ねらい：
 ・農耕、牧畜がない時代の生活の不安定さを想像する。
 ・やじり作り等の体験も通して、縄文時代の人の、生活するための工夫、技術などの素晴らしさの一端を知る。

○食べ物を手に入れるまでの手間を考える。(縄文時代まとめ：1時間)

- T「例えば、鹿を手に入れるために、縄文時代の人はどんなことをしたの？」
 S「弓矢で殺す。」(動作であらわす生徒も)
 T「その弓矢はどうしたの？ 弓矢屋さんで買って来たの？」
 S「ちがう。」「木を切って自分たちで作る。」「木を運ぶ」
 「ロープみたいの…、小さいの…、そういうのさがして…黒燐石を木の間に
 はさんで、まく、ひも、まいて矢みたいにする。」
 ※植物の繊維を糸状に編んでいる絵を見せる。
 T「ひもも作ったんだねえ。」
 S「黒燐石」
 T「黒燐石は黒燐石屋さんに矢の形したのが売ってんの？」
 S「ちがう。自分で。自分でたたいて…けずって…作る。」
 「黒燐石をさがす。」
 T「どこでもあるの？」
 S「ある所とない所がある。」
 T：今度宿泊学習で行く霧ヶ峰近辺で、たくさんの黒燐石がとれたことなどを話す。
 「近くにとれるところが無かったらどうすんのかな？」
 S「ダイバー……海に潜る」
 T：黒燐石と他の物を物々交換した話。
 「黒燐石を手に入れて、削って……、鹿を探して、弓矢でねらって、必ずとれる？」
 S「はずれることもある。」
 T：食べ物を手に入れる手間を話し、「縄文時代に住んでみたい人？」
 S：わかれる。
 「ずっとはやだな、ちょっとだけ行ってみたいけど…」
 「行きたくない。」
 「住みたい。」
 ……………
 ※・生活の不安定さ、大変さを鮮明にしようと思い、最後の所で「縄文時代に住んでみたいか？」という質問をしたが、適切ではなかった感じ。
 ・生徒は縄文時代の食べ物、それを手に入れる方法などは理解した。
 ・「縄文時代は『狩りと採集』の時代」とまとめる。

○「長門町古代ロマン体験館」にて (1時間)

[展示物の見学]

- ・黒燐石のバレーボール大のかたまりを見る。
- ・「縄文時代の食べ物」という展示

S「先生、僕たちが予想したのとおんなじだ。」

[体験学習]

4人が、黒燐石のやじり作り、2人は鹿の角のアクセサリー(骨角器)作りを行った。特にやじり作りの方は、かなり難しいので、生徒達にやらせるのは

どうかな?とも思ったが、「難しいーっ」と思ってくれば、それはそれでよし、と考えて、作りたい方を選ばせた。

やじりは、黒燐石のかけらを、先に太い銅線のついた鉄筆のような道具で少しずつ削り、形をやじりにして行くという作業だったが、4人とも熱中し、失敗しながらも、何とか似た形にしていた。

骨角器の方は、形はできているものに、先の尖った黒燐石で穴をあけ、水につけながら石で磨いて表面をなめらかにし、最後に絵の具で好きな模様をつける、という工程。こちらも予想外に磨く作業に集中していた。

[体験館での学習の反省]

時間は40分位で大丈夫でしょうと言われ、その時間で計画を立ててしまったが、実際にはもっと時間が必要で、やじりの形ができあがったところで、体験館の指導員が矢にゆわえつける作業をやってくださり、「よーし、自分の矢ができた。」という感激が薄れた感じだった。

○宿泊学習から帰って (0.5時間)

- ・やじりや骨角器作りの感想を聞いたが、基本的には「簡単だった。」「楽しかった。」という印象を持ったようだ。細かく聞いていくと、「石(黒燐石)をけずるのが大変だった。」「一番上をとがらせる所が三角形になって、なかなか切り落とせなかった。」などの感想が出た。
- ・少なくとも「狩り」が道具作りに始まって簡単ではなかったことを確認。
- ・「ところで縄文時代って、何年くらい前だったんだろう?」ということ、
 「キョウリュウの時代」等ともからませて、考えて行こうとしたのだが……

まとめ)

1. あなたは縄文時代に暮らしてみたいですか?

(ちがうと行ってみたいけれど
あまたとちい)

2. それはどうしてですか?

(ちがうからちの中がけ
しいから)

3. それとくらべて、今の生活はどうですか?

(じょうもんじだいいにく
けりて生活かたのせい)

3. まとめと今後の課題

【学習内容をどう選定するか】

今回は、自分がもともと「縄文時代の学習をいつかやりたい。」と持っていたものでなく、思わぬきっかけから選んだものだった。そのために、こちら（教員）が多くの知識を持っていたり、深い理解をしていたり、という中からの授業ではなく、授業と同時進行で調べて行くという形であった。

授業を終えてみると、縄文時代は農耕が始まる前にあって、ヒトが様々な工夫をして行くとても魅力のある時代だと思う。生徒達は興味をもって授業に臨んでくれたが、今と縄文時代を比べるだけの表面的な理解に終わってしまったのではないかと考えている。

もっと自分がたくさんの持ち玉を持ち、或いは少ない種類でも深い理解をもって、その中から「じゃあ、今度の授業ではどうするか？」というふうにもっていかねばと、改めて感じた。

【「歴史の中の自分」という認識にどうつながって行くか】

生徒達は、「一週間前」「一カ月前」などがわからなかったり、「『梅雨』っていつごろだっけ？」と聞いても、「2月」「秋」等ぞろぞろ出て来て、「ウーン」とうならせてもらえる。「梅雨」と聞いてジメジメした感じや、遊歩道に咲いている紫陽花や、「梅雨が明けて、カーッと暑くなる」という感じ等々、いろいろなイメージを持てるようになってほしいと思う。そしてそういう季節感というようなものを持って、「1年」をイメージすること等と、自分が、宇宙の誕生から長い長い歴史を経て、途切れることのない生命のつながりがあって、今の自分がある、と少しでも思えるようになることと、どのようにつながっていくのかなぁと考えている。それを全て社会科の中でできるものでもないが、では社会科では、その中でどんな迫り方をしていけばいいのだろうか、というのが、目下の課題の一つである。

【クラスの全員が「社会科」の授業に参加していると言えるのか？】

S5さんは、よくわからない単語を並べて、いっぱいおしゃべりするが、語彙も非常に少なく、ことばだけで事実や気持ちを伝え合うことがとても難しい。彼女も授業に参加できるように、気持ちは向けて来たつもりだが、そして彼女自身もいろいろな場面で考え、自分なりのことばで意見を言ったりして来たが、やはり抽象的な話題になる場面では、気持ちが離れて行くようで、こちらも気になりながらも、「この所はしょうがないや。」という言い訳で、そのまま授業を進めて来た。また、そこまで行かなくても、彼女が精一杯参加している場面でも、果たして「社会科」の授業に参加していたと言えるのだろうか、それは例えば国語の場面でもよかったのではないかと、という気がしている。彼女がどういう参加の仕方をしていけば「社会科」の授業に参加していると言えるのか、どうすれば参加できるのか、考えに行かねばならない。

【資料】

◎生徒数

	1年	2年	3年	合計
男	2	2	0	4
女	1	1	0	2
計	3	3	0	6

◎94年度時間割

	月	火	水	木	金	土
1	道	理	国	音	国	体
2	数	社	数	音	数	体
3	音	体	美	家	調	学
4	音 英	体	美	作	調	
5	太 鼓	国	社	作	片	
6	学	ク		学		

◎93年度都教研レポートより

1. なぜ社会科に取り組むようになったか？

一昨年まで、松が谷中の障害児学級の時間割には、「理科」「社会」はなかった。というより、さらにその前までは、行事单元を中心に学習を行っており、国語や数学などの学習が継続してできていなかった。必要がないと思っていたわけではなく、行事にしっかり取り組ませたいと思うと、かなりの時間をさかねばならず、そうすると国語や数学の授業は細切れになり、中途半端になってしまう、という循環だった。また、自分の中に、「こんなこと（特に生活面）もできないのに、国語や数学をやっても…」という思いがあったことも否めない。それは、生活の力を大事にすることと、国・数などをていねいにやることは、結びつかないものだという意識でもあった。しかし、教科の学習を大事にして、子どもたちの認識の力を高めて行くという、すぐれた実践に出会って行く中で、それが、生活面の力を育てて行っている、国語や数学の授業を大事にすることは、生活をないがしろにすることではないのだ、という思いが強くなっていった。（当たり前ですが……）

そしてある時、はた目にはよくしゃべれて物がわかっていそうな生徒が、太陽は朝日用の太陽がいったん出て沈み、昼間の太陽が出て沈み、最後に夕日用の太陽が出て沈むと思っていた、ということがわかり、愕然とした。まさかこのぐらいはわかっているだろうと思うようなことが、いろいろぬけているのではないかと、また、世の中のできごとにもあまり関心がなく、世間で大事件が起こっても関係ないということが多く、ということで、昨年度週1コマ「理科・社会」の授業を入れ、今年度週2コマ組んだ。今のところはほとんど、社会科にあてている。